

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
仏教学部	禅学科	夜・通信	12		16	28	13	
	仏教学科	夜・通信			16	28	13	
文学部	国文学科	夜・通信	14		16	30	13	
	英米文学科	夜・通信			8	22	13	
	地理学科 地域文化研究専攻	夜・通信			8	22	13	
	地理学科 地域環境研究専攻	夜・通信			8	22	13	
	歴史学科 日本史学専攻	夜・通信			20	34	13	
	歴史学科 外国史学専攻	夜・通信			16	30	13	
	歴史学科 考古学専攻	夜・通信			16	30	13	
	社会学科 社会学専攻	夜・通信			12	26	13	
	社会学科 社会福祉学専攻	夜・通信			16	30	13	
	心理学科	夜・通信			16	30	13	
	経済学部	経済学科			夜・通信	14		20
商学科		夜・通信	16	30	13			
現代応用経済学科		夜・通信	16	30	13			

法学部	法律学科 フレックスA	夜・ 通信	14		16	30	13	
	法律学科 フレックスB	⑨夜・ 通信	14		16	30	13	
	政治学科	夜・ 通信	14		14	28	13	
経営学科	経営学科	夜・ 通信	14		14	28	13	
	市場戦略学科	夜・ 通信			14	28	13	
医療健康科学部	診療放射線技術 科学科	夜・ 通信	6		20	26	13	
グローバル・メディア・ スタディーズ学部	グローバル・ メディア学科	夜・ 通信	14		14	28	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>大学概要>情報公開>就学上の情報等>授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画>2022年度実務経験のある教員等による授業科目一覧</p> <p>https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/study.html</p> <p>駒澤大学ホームページ>(シラバス(講義内容))</p> <p>https://www.komazawa-u.ac.jp/~kyoumu/syllabus_html2021/index.html</p> <p>※検索ボックスに「実務経験」と入力して検索することで、実務経験を有する教員のシラバスが表示される。</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/official.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	曹洞宗総務部長	2022.4.1～ 2026.3.31	①組織運営体制への チェック機能 ②経営計画の策定
非常勤	曹洞宗宗議会議員	2022.4.1～ 2026.3.31	①組織運営体制への チェック機能 ②経営計画の策定
非常勤	曹洞宗宗議会議員	2022.4.1～ 2026.3.31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元証券会社役員 駒澤大学同窓会会長	2022.4.22～ 2026.4.21	財務・資金運用 への助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全ての授業科目について、前年度の11月に各教員に対し、「シラバス作成ガイドブック」に基づいたシラバス作成を依頼している。シラバスには、授業概要・到達目標(ねらい)・授業スケジュール・準備学習・成績評価の方法などの項目が含まれている。作成されたシラバスは各学部学科主任等または各研究科の専攻主任による第三者チェックを経た上で、毎年年度開始直前の3月末に本学ホームページで公開され、学生ポータルサイトでも履修登録開始までに閲覧可能となる。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>駒澤大学ホームページ> (シラバス (講義内容)) https://www.komazawa-u.ac.jp/~kyoumu/syllabus_html2022/index.html KONECO (駒澤大学学生向けポータルサイト) (要ログイン ID) https://koneco.komazawa-u.ac.jp/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 次年度シラバス作成時に、全教員宛に配付する「シラバス作成ガイドブック」にて、成績評価方法(項目と割合)を具体的に記述するよう指示している(全ての科目について入力必須)。固定表示された「試験・レポート・小テスト・平常点」に加えて他に4項目まで追加でき、必要な評価項目にのみ割合を入力して合計を100%とする。その配分に則り、教員は成績評価を行う。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価におけるGPA等の客観的な指標は、履修要項・大学HP・学生ポータルサイト等に掲載し公表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績は、各科目を「S A B C F空欄T」によって評価され、予め定められたGPAの値によって算出される。 ・GPA算出式については、以下の通り設定している。 $\frac{S \text{ 修得単位数} \times 4.0 + A \text{ 修得単位数} \times 3.0 + B \text{ 修得単位数} \times 2.0 + C \text{ 修得単位数} \times 1.0}{\text{履修した科目の総単位数 (F・評価のない科目を含むが評価 T(認定は含まない)}}$ <p>成績の分布について、厳正化を図るため、ガイドラインにて、Sが5%、Aが30%程度と目標値を設定しており、成績評価登録時に科目担当教員へ分布を開示している。また、学部単位の成績分布については、教務部委員会にて審議されている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>履修要項 (HP 版)</p> <p>https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html 駒澤大学ホームページ>成績について</p> <p>https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/test-result/examination-result.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

以下のとおり、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、大学ホームページや履修要項で公開している。さらに、学生の修得単位数等が記載された判定資料を元に、3月に開催される各学部教授会において、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に鑑みて成績ならびに卒業の判定を行っている。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

駒澤大学は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学部学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について社会人に求められる十分なレベルを修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【仏教学部】

仏教学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 多様性理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、それによって研究・考察した結果を、他者にわかりやすく発表できる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【文学部】

文学部は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの力を身につけ、所定の期間在学し、各学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

建学の理念を踏まえ、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

各学科が求める専門的知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸問題に多角的な観点からの確に対応できる。その際、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しようと試み、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけるとともに、問題の発見や問題の解決の前提となる効果的な表現力・発信力を身につけている。また、国内外の多様な資料やデータを解析し、解釈や評価を下す能力がある。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文等の作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した各専門分野の知識・技能を活用し、豊かな創造力と表現力を持って社会の発展に貢献することができる。また、国際的視野に立って、直面する現実社会の中で、知識・技能を活かすことができる。

【文学部国文学科】

国文学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の1～5の能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して「学士(国文学)」の学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に対する理解を深め、それらの教養と文学・文化との関わりを多角的に分析することができる。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、多様性、主体性、協働性〕

人文・社会・自然に対する豊かな教養を習得し、日本の文学・文化の考察とも接続させる広い視野を持っている。また、外国の文学・文化と比較、さらに人種・性差等の多様なあり様を捉える視点を組み合わせて、異質さを受け入れる柔軟さと寛容さを身につけている。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、表現力、判断力、協働性、主体性〕

作品や文献資料の調査と読解分析を反復練習することを通じて、膨大な情報の整理と分析の方法を学び、その能力を鍛える。データの処理等を含め ICT(情報通信技術)の技能を磨き、十分なリテラシー能力を身につけている。

(DP4) コミュニケーション能力〔表現力、技能、多様性、協働性、思考力、主体性〕

「国語国文学演習」等の実践的な授業を通して、自らが発見した問題とその解決のプロセスを明確に伝えることができる。他者と討論することによって、より知見を広げ研究を深めることができる。これらを通して、プレゼンテーションの技術を向上させ、研究に取り組む自主性・積極性を身につけている。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、理解、思考力、表現力、技能、主体性、協働性、多様性〕

国語学においては、古今の日本語の特質を実証的に解明することによって、広く日本の言語文化を体系的に把握する。国文学においては、上代から現代に至る古今の文学的的確な読解を通して、広く日本の知性と感性のありようを理解する。漢文学においては、漢文文献の読解を通して、様々な思想とその多様な表現のありようを学ぶ。〈ことば〉をめぐって、文化や思想を学ぶことは、自己を再発見していくことにつながる。

【文学部英米文学科】

英米文学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの力を身につけ、所定の期間在学し、必要な科目を124単位以上修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

建学の理念を踏まえ、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題の解決の能力を有している。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

英米を初めとする英語圏の文学および英語学についての体系的な知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸問題に多角的な観点からの的確に対応できる。その際、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しようと試み、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけるとともに、問題の発見や問題の解決の前提となる効果的な表現力・発信力を身につけている。また、国内外の多様な資料やデータを解析し、解釈や評価を下す能力がある。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

レポートや論文等の作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した各専門分野の知識・技能を活用し、豊かな創造力と表現力を持って社会の発展に貢献することができる。また、国際的視野に立って、直面する現実社会の中で、知識・技能を活かすことができる。

英語学においては、古今の英語の特質を実証的に解明することによって、広く英語の言語文化を体系的に把握する。英文学・米文学においては、中世から現代にいたる古今の英語で書かれた文学的的確な読解を通じて、広く英語圏の人々の感性のありようを理解する。言葉をめぐって、文化や芸術を学ぶことは自分を再発見することに通じる。

【文学部地理学科】

地理学科および地理学科に設置されている二つの専攻(地域文化研究専攻・地域環境研究専攻)は、地域の文化や環境の本質について、フィールドワークをとおして理解できる人材を育成する。この学習成果をもって、卒業後、交通・旅行業界、地図製作・測量業界、不動産関連業界、行政・教員、学術・研究などの分野において、実務の現場で活躍できる人材を輩出することを目標とする。具体的には、「学士(地理学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

(DP1) 本学の建学の理念を理解した上で、人間と自然の関係について考え、主体的に行動

できる力を身につけていること。

(DP2) 地理学的な調査・研究・発表に必要な倫理観を備えていること。

(DP3) フィールドワーク、観測、測量、統計分析、GIS など、地域の文化や環境の調査に必要な知識と分析能力を身につけていること。

(DP4) 協働して地域を対象とした調査を行い、その結果に関する正確な文章表現ができること。

(DP5) 専門知識を活かして、地域の課題を解決する実践力を修得していること。

【文学部歴史学科】

歴史学科では、教育の理念にもとづいて定められた下記の5つの能力を身につけ、4年間在学し、必要な科目を124単位以上修得した学生に対して、卒業を認定し、学士(歴史学)の学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心・意欲、態度、主体性〕

駒澤大学の建学の理念に基づき、自己形成と学問研究を密接に関連して行う態度や能力を修得していること。また、宗教に対する理解と寛容な態度を修得していること。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然に対する豊かな教養を修得し、外国語の確かな運用能力と異文化を理解する力を身につけていること。歴史についての幅広い知識や理解力を修得し、様々な現象に対する歴史的洞察力を修得していること。異文化として歴史を理解し、現代社会を客観的に理解する能力を身につけていること。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

研究の素材となる史資料の所在を調査し、それらを収集する能力を備えていること。史資料の性格を的確に理解して正確に読み解く能力を修得していること。既存の研究の弱点や問題点を発見する批判能力を修得していること。幅広い教養や歴史の理解を通じて問題発見能力を修得していること。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

討論を通じて、他者を理解し、自己の研究を客観化する能力を身につけていること。みずからの調査・研究の結果から自分なりの仮説を構築し、その内容を論理的かつ明確に表現する能力を身につけ、卒業論文として公開すること。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

自ら設定した問題意識に従って史資料との対峙・対話を行い、そこに内在する問題を掘り起こし、批判的な検討と客観的な分析を通じて、歴史を論理的かつ体系的に理解する能力を身につけていること。

【文学部社会学科】

社会学科社会学専攻は、専門的な講義科目を受講することによって、社会学の体系的なリテラシーを習得していること、演習・実習科目を履修することによって、自らの問題意識の発見と問題解決能力を体得していること、さらには卒業論文・演習レポートを執筆することによって、自らの問題意識に基づき、的確に問題設定を行い、その解答を導き出すとともに、社会に対してそれを発信できる表現力を身につけていること、以上によって所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学士(社会学)の学位を授与する。

社会学科社会福祉学専攻は、福祉の諸問題を客観的、科学的に分析し、実践的に対処できるための専門知識・技術を身につけ、現代社会の多様性に柔軟に対応するための社会人・職業人を育成することを目的とし、以上に述べた事項を達成するために必要な単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士(社会福祉学)を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

建学の理念を理解し、自らを高める自己形成と社会学・社会福祉学の学問領域とを密接

に関連付けることのできる「駒澤人」としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

幅広い教養と洞察力をもとに、専門教育を通じて豊かな感性と人権意識、現代社会の多様性を理解し尊重する態度を身につけている。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

社会学と社会福祉学における専門的知識・技術を体得するとともに、社会的・福祉的視点を活用した情報分析能力を活かし、主体的に問題設定を行い、それを解決する力や表現する力を体得している。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

他者と主体的に協働するコミュニケーション能力、自らの考えを論理的かつ明確に伝えるプレゼンテーション能力および文章力を身につけている。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した専門知識や技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、社会に発信・貢献できる能力を身につけている。また福祉専門職を目指す学生については、それぞれの福祉現場で必要となる知識や支援技術を十分に体得し、実践力の高い応用力を身につけ、福祉現場に主体的に貢献することができる。

【文学部心理学科】

心理学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学科が定める124単位以上を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

客観的な判断や思考を備えた科学的な態度を持ちつつ、駒澤大学の建学の理念である仏教の教えと禅の精神を深く理解し実践する主体性を備えている

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

- ・人間を複眼的、重層的に理解するための社会、文化、自然に関する幅広い知識を習得している
- ・多様な文化や価値観を理解し、尊重できるような柔軟な視点を持っている

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

- ・人間や人間社会に関する多様な情報を実証的な方法で収集し分析することができる
- ・収集した情報から問題を発見し、かつ問題を解決する適切な手段を考えることができる
- ・問題やその解決法について根拠に基づいた説明ができる

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

- ・適切に自己を主張し、かつ他者の話を公平に聴くことができる
- ・論理的かつ簡潔に話したり書いたり、発表することができる
- ・他者と協調、共同して生産的な活動に従事することができる
- ・自ら計画し、行動し、評価し、改善ができる

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

- ・基礎領域ならびに応用領域における心理学の知識を体系的に理解していること
- ・実証的な方法でデータを収集し分析するための情報処理力と数理能力を備えていること
- ・得られた情報や知見を論理的かつ多面的に整理し、社会に発信できること

【経済学部】

経済学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学部学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【法学部】

法学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の5つの能力を、法律学および政治学それぞれの分野に即して身につけ、所定の期間在学し、各学科の定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、主体的に社会の発展に貢献することができる。

(DP2) 多様性理解と協働力〔理解、多様性、協働性〕

法学・政治学分野の専門知識はもとより、社会、人文、自然、ライフデザイン、様々な異文化に関する多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しつつ、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、また相手を思いやる態度を持ちながら他者と主体的に協働することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔知識、技能、思考力、判断力〕

現代社会における法や政治・行政に関する諸問題について、多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考し、問題発見や問題解決に解決する方策を効果的に発信することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔理解、表現力〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また外国語の基本的技能を習得し、コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解し、自らの考えを表現することができる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

法学部の学生として、法と政治を基軸に社会・経済を見る眼を養い、体系的に修得した法学・政治学分野の知識・技能・技術を活用する能力を持つとともに、倫理観と社会的責任を身につけ、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【経営学部】

経営学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経営学を中心とする専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

経営を中心とする情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じて ICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文などの文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、相手の状況を理解した上で自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について社会人に求められる十分なレベルまで修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【医療健康科学部】

医療健康科学部は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部・学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、医療人としての強い責任感と豊かな人間性を有している。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

社会に関する幅広い知識と、専門分野である医用放射線分野における確かな基礎学力と専門知識・技術の知識を身につけ、他の医療スタッフや患者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な医療情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、ICT(情報通信技術)を活用し、問題を発見し問題解決に繋がるアイデアを出し、自ら行動することができる。

<p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 レポートや論文等の内容理解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他の医療スタッフと主体的に協働することができる。また、外国語(英語)の確かな運用能力を有している。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 診療放射線技師を目指すものとしての、診療画像および医用放射線科学領域における専門分野の知識・技能・技術を習得し、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p> <p>【グローバル・メディア・スタディーズ学部】 グローバル・メディア・スタディーズ学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、深い人間性をもってよりよい世界の実現に貢献する意欲を有している。</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 当学部の学問的基盤となる諸分野(経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学等)の科目を幅広く履修し、新たな知の創造に結びつける力を身につけ、グローバル市民として多様な文化・価値観を理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 理論と実践の両面から、グローバルな課題を見出して解決への道筋を追究するための情報分析力、論理的思考力、そして問題解決能力を備えている。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 十分な語学力、とりわけ、実質的なグローバル・コミュニケーション・ツールである英語を使いこなす力を備え、グローバルな環境において、レポートや論文等の文章読解・作成、およびプレゼンテーションを行い、自らの考えを論理的かつ明確に伝え、他者と主体的に協働していく能力を備えている。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 自ら選んだ専門領域、及びその関連領域における専門知識に基づいてメディアとコンテンツの本質を理解し、地球規模の問題解決に資する研究・分析・提案の能力を身につけている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能) https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
収支計算書又は損益計算書	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
財産目録	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
事業報告書	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
監事による監査報告(書)	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人駒澤大学 令和4年度事業計画書 対象年度:2022年度)
公表方法:法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
中長期計画(名称:学校法人駒澤大学第3期中期事業計画(2022-2026) 対象年度:2022年度から2026年度まで)
公表方法:法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:公表方法:駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/self-inspection.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/accreditation.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 仏教学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能) https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>仏教学部は、建学の理念である「仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神」に則って教育を行う中心的学部であり、それらを体系的に多角的視野から学び、仏教による人間教育を行う。それらをその後の多様な人生の中に自ら活かし、広く社会に発信することができる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能) https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>仏教学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができるとする駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。</p> <p>(DP2) 多様性理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、それによって研究・考察した結果を、他者にわかりやすく発表できる。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：①駒澤大学ホームページ</p>

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

釈尊に始まり、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもって、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・禅の教義や実践的意義、教団の歴史的展開および社会・文化に与えた影響などを多角的視野から学び、広汎な視点に立脚し、様々な仏教の思想や文化を修得し、それぞれが興味を持った分野について、より深く研究していくとともに、その学びの中で得た仏教の考え方や生き方を拠り所としながら、その後の豊かな人生を実現することが出来るよう教育する。また、教育課程においては、自らの身心をかえりみ、誤った思い込みなどに気づくように努めるとともに、決まり切った常識を疑い、自ら探求して物事の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。また、「坐禅」で、自ら坐禅を実習することによって、その意義と実践方法を身につける。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として1年次に「仏教学セミナー」を、2年次に「基礎演習」を開講し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけると共に、仏教や禅を研究し実践するための基礎的な教育を行う。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、仏教や禅を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求し、これまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実習科目を配置し、卒業年次に学びの集大成として卒業論文を作成する。
- 6) 曹洞宗の僧籍を有する学生は、僧侶として修めるべき基礎教育科目を履修することができる。

2. 教育方法

- 1) 1、2年次は、禅学科・仏教学科の区別はない。専門研究への導入として、仏教や禅の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・環境への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各領域の体系的知識を修得しながら、その後の研究の基礎となる語学や、仏教および禅の研究方法を修得する。2年次には、曹洞宗の宗旨の根幹に位置づけられる坐禅を必修科目として実習する。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナー、仏教学セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 3年次に、禅学科と仏教学科の学科分けが行われる。それぞれの学科において、さらに専門的な自らの研究課題を持ち、必修科目である演習 I を中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習 I を継続してより深める演習 II と、卒業論文を必修とする。演習科目(ゼミ)では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) e ラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理

解を深め、単位の実質化を図る。

5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目(演習を除く)では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。

6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1・2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎		○		多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1・2	1・2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1・2	1~4		◎		○		スポーツの実践能力や健康に関する理論を身につける。
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	2~4	1					◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2~4	1~4					◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	実習科目	1~4	1~4			○	○	◎	坐禅を実習し、その意義を学び、実践方法を身につける。
	演習科目	2~4	1~4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究	4~8	4	○		○	○	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>
③履修要項 (HP 版)
<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

【入試に係る取組・改善状況】※全学部共通事項

2021 年度入試より、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受験生・教職員の安全を確保しつつ充実した入学者選抜を実施するため、本学として初めてオンラインによる面接・口頭試問を導入した。

オンライン面接当日の接続率は 95%を超え、推薦選抜約 110 名の受験生に対し、大きなトラブルは発生することなく実施することができた。

今後も一部の選抜方法において、オンラインによる面接・口頭試問を実施する予定である。

(概要)

仏教学部では、専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につけた上で、より専門的にその分野の知識・能力を深めるため、禅学科・仏教学科に学科分けせず入学者選抜を行い、3 年次進級時において、学科を選択する方式をとっている。仏教学部では、この前提において、受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 仏教学部の求める学生像

(AP1) 仏教学部では、広い視野に立ちながら多くの関係文献を丹念に読解していく学習態度と知識と読解力が求められる。そのため、高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身につけている学生を求めている。一般においては、教科試験によって評価し、自己推薦・特別選抜においては、調査書・書類審査・筆記試験等によって評価する。〔知識、理解、技能〕

(AP2) 仏教や禅を学ぶ強い意欲を持っていることを基準として各種の自己推薦・特別選抜を実施する。特に、仏教や禅を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する人を対象に「特性評価型」の自己推薦選抜を実施する。高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かし、また曹洞宗僧侶として生涯にわたって禅および仏教の修学をつづける意欲ある学生を求めている。小論文・面接等によって学習意欲と学習能力を確認し評価する。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 仏教学部のカリキュラムを修得する上で必要な国語・外国語・歴史において、十分な基礎能力を有し、また、与えられた課題に対し、自分の視点や意見を論理的に表現できる思考力と文章力、大学生活に適應できるコミュニケーション能力を有し、周囲の人々と豊かな人間関係を構築できる学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔思考力、判断力、表現力〕

(AP4) 仏教学部では、世界的に関心を持たれている仏教や禅の歴史や思想を体系的に学習・研究することによって、国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔主体性、多様性、協働性〕

学部等名 文学部

教育研究上の目的

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

<p>(概要)</p> <p>文学部は、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則って、人間に関わる人文諸学の智に基づき、人間の本質の理解および社会の諸問題の解決に取り組むことで、社会に貢献できる幅広い教養と専門性を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>その理念・目的を達成するために、6学科(国文学科・英米文学科・地理学科・歴史学科・社会学科・心理学科)を置き、さらに地理学科には2専攻(地域文化研究専攻・地域環境研究専攻)、歴史学科には3専攻(日本史学専攻・外国史学専攻・考古学専攻)、社会学科には2専攻(社会学専攻・社会福祉学専攻)を置き、深く広い人文教養によって、人間を多角的に考察できる多彩な構成となっている。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能) https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの力を身につけ、所定の期間在学し、各学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を实践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 建学の理念を踏まえ、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 各学科が求める専門的知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸問題に多角的な観点からの確に対応できる。その際、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しようと試み、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけるとともに、問題の発見や問題の解決の前提となる効果的な表現力・発信力を身につけている。また、国内外の多様な資料やデータを解析し、解釈や評価を下す能力がある。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 レポートや論文等の作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 体系的に修得した各専門分野の知識・技能を活用し、豊かな創造力と表現力を持って社会の発展に貢献することができる。また、国際的視野に立って、直面する現実社会の中で、知識・技能を活かすことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能) https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>

(概要)

文学部は、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた5つの力を身につけるために必要な教育プログラムを構築し、教育課程の体系的をわかりやすく明示して、4年間の教育課程を編成する。また、アセスメント・ポリシー(評価の方法)を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、到達度を適正に評価し、教育の改善につなげられる仕組みを構築して、教育課程や教育方法の見直しを行う。教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自律的で自主的な学修態度を身につけるために「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 全学共通教育科目を通して、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、各学科の専門知識や技能の習得ばかりに偏らないようにする。
- 4) 専門教育科目では、各専門分野の知識を体系的に学修できる講義科目、自らが主体的に研究を進める機会となる演習科目、専門的な技能の習得を目指す実験・実習科目を配置する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 専門科目を学ぶための基礎科目を1年次に必修科目として配置し、学年の進行に合わせて段階的な学修の積み上げを可能とする科目構成とする。
- 3) 人間や社会、文化について考究するとともに、問題と見解を的確に表現できる人材の育成を目指す。そのために、少人数制の演習科目の充実を図り、実践的に学ぶ環境を整え、プレゼンテーション能力の開発を重視する。
- 4) 「卒業論文」を重要科目として位置づけており、指導教員の担当する卒業演習に参加し、学生がお互いに切磋琢磨する環境の中で研究を深め、4年間の集大成としての卒業論文の作成を指導する。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

文学部は、6つの学科で構成されており、学生は、これらの領域で行われる教育・研究を通して、多様な観点から、人間や社会、文化について深く学び、また、教養を広め、感性を養い、自己の考えを的確に伝える表現力を磨くことになる。文学部は、既存の概念に縛られずに研究対象と向き合い、他人との討議によって、異なる意見にも耳を傾け、自己の考えを改めて謙虚な姿勢で問い直せる知的生産力の高い人材の育成を目指す。私たちが入学を期待するのは、以下のような学生である。

- ・ 鋭い感性を磨き、幅広い教養を身につけたい人。
- ・ 人間や社会、文化に関する問題を深く探求したい人。
- ・ 論理的な思考力、柔軟な発想力、的確な表現力を養いたい人。

文学部の求める学生像

(AP1) 高等学校の基礎的な学力を身につけている。特に「国語」、「英語」の基礎的な学力を有している。〔知識、理解、技能〕

(AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、人文学に関

心があり、文学部で4年間学んだ知識・経験を社会に出てから活かしたいという意欲を持っている。〔意欲、関心、態度〕
 (AP3) 社会の出来事について問題意識を持ち、変化し続ける社会状況を読み解き、その考察した問題に関して他者にわかりやすく説明し、意見交換ができる。〔思考力、判断力、表現力〕
 (AP4) 国内外の文化・社会の違い、価値観の違いについて理解し、他者を尊重しつつ、主体的に協働して物事を進めることができる。〔主体性、多様性、協働性〕

学部等名 経済学部

教育研究上の目的
 公表方法：①駒澤大学ホームページ
<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>
 ②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)
<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>
 ③履修要項 (HP 版)
<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)
 建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則り、転換期を迎える世界経済の中で、経済学に基づいた学びを実践し、理論的な基礎知識からビジネス・地域社会の第一線で活かせる応用力までを身につけた新しい時代の経済社会を担う人材を育成する。社会や歴史についてしっかりと考えるための知識と知力を基礎に、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける。

卒業の認定に関する方針
 公表方法：①駒澤大学ホームページ
<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>
 ②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)
<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>
 ③履修要項 (HP 版)
<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)
 経済学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学部学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕
 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕
 人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕
 多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕
 レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

経済学部は、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた5つの能力を身につけるために、以下の方策をとる。全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す、駒澤大学による「駒澤人育成基礎プログラム」を基礎としつつ、経済学部・学科の専門教育科目と密接に関連づけて接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系的をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリング(順位づけ)や履修系統図(カリキュラム・マップ)を作成する。また、アセスメント・ポリシー(評価の方針)を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、経済学部として教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、経済学を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、将来志望する業界や進路を念頭に置いたコース制によって専門科目の系統的な学習を促進する。さらに、各学科で将来の職業選択に関連する資格取得のためのコースを設置し、学外講師による最新のビジネス動向やコミュニティ経済を支えるさまざまな組織の動向を知るための講義を設置する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 演習科目(ゼミ)では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的

に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。

5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。

6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テスト（ペーパーテスト等の直接評価により学生の知識・技能・態度等を測定）の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1～2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1～2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1～4				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1～4			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ ライフデザイン分野	2～4	1～4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1～2	1～2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1～2	1～4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	2～4	1					◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2～4	1～4					◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目	1～4	1～4			○	○	◎	実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目	1～4	1～4			○	○	◎	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。

演習科目	2~4	1~4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
卒業論文・卒業研究	4~8	4	○		○	○	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

経済学部は、これまでの学習経験や関心のある分野について知識・能力を深めていくこと、自らの将来の目標に向けて知識能力を高めていくことなど、駒澤大学に入学して何を学びたいか何をするかなどの目標や意欲を持った入学者を求めている。また、入学希望者に対しては、幅広い教養と専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うとする、駒澤大学の教育の理念を理解した上で出願することが望まれる。経済学部では、こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 経済学部の求める学生像

経済学部は、以下の条件を満たす学生を受け入れる。

(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している〔知識、理解、技能〕

(AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、経済学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕

(AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

学部等名 法学部

教育研究上の目的

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

法学部は、建学の理念に則り、社会的実践と深く結びついた学問分野である法律学と政治学の修学を通じて、現代社会の多様性に対する感性と理解力、また社会の中で必然的に生じる法的・政治的問題に対処する情報分析力と実践的な問題解決力を養成し、そうした能力を支える幅広い教養を培う。これによって、将来の職業生活を通じて地域社会さらには国際社会に対し責任をもって貢献できる人材を育成するための「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学の教育の理念とする。

<p>卒業の認定に関する方針 公表方法：①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学学部学科案内 2023 KONAMABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能) https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要) 法学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を、法律学および政治学それぞれの分野に即して身につけ、所定の期間在学し、各学科の定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、主体的に社会の発展に貢献することができる。</p> <p>(DP2) 多様性理解と協働力〔理解、多様性、協働性〕 法学・政治学分野の専門知識はもとより、社会、人文、自然、ライフデザイン、様々な異文化に関する多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しつつ、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、また相手を思いやる態度を持ちながら他者と主体的に協働することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔知識、技能、思考力、判断力〕 現代社会における法や政治・行政に関する諸問題について、多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考し、問題発見や問題解決に解決する方策を効果的に発信することができる。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔理解、表現力〕 レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また外国語の基本的技能を習得し、コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解し、自らの考えを表現することができる。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 法学部の学生として、法と政治を基軸に社会・経済を見る眼を養い、体系的に修得した法学・政治学分野の知識・技能・技術を活用する能力を持つとともに、倫理観と社会的責任を身につけ、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能) https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要) 法学部は、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた 5 つの能力を身につけるために「駒澤人育成基礎プログラム」(全学共通科目)と法学部各学科の専門教育科目をシームレスに接続させ、有機的に結びつけた 4 年間の教育課程を編成する。教育課程の体系的性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリングや履修系統図(カリキュラム・マップ)を作成する。また、アセスメント・ポリシー(評価の方針)を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し教育課程や教育方法の改善を図る。教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。</p> <p>1. 教育内容</p>

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。（「実用英語」では、「聞く」「話す」に重点を置いた英語教育を行う。）このほか、日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 社会、人文、自然、ライフデザイン分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 演習と講義科目を効果的に組み合わせた専門教育科目の体系的履修制度を通して、法と政治を基軸に、社会・経済を見る眼を養い、論理的思考力、分析力、問題解決力などの修得を促す。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 教養教育科目に配置されている「新入生セミナー」では、法律学科での学修につながる問題の発見・分析能力、論理的思考力、読解力、表現力等の基礎的学修能力を身につける。
- 3) 演習科目（ゼミ）においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を心がける。事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則少人数制による担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標に基づく全学的な検証を行い、教育内容や教育方法の改善に積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1～2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1～2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。

	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1				◎		ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4			◎			多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1~2	1~2			◎		○	外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1~2	1~4			◎		○	スポーツの実践能力や健康に関する理論を身につける。
専門教育科目	導入教育科目	2~4	1					◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2~4	1~4			○	○	◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目	4	2~4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

法学部では、法学・政治学の基本となる公民、歴史、地理などの社会科学科目に特に興味があり、それらの科目を含めた幅広い基礎学力を有するとともに、主体的に問題を発見、分析・検討することのできる能力の習得に関心がある学生を求める。本学部では、こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 法学部の求める学生像

(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕

(AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、法学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 現代の地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕

(AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、他者と主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

学部等名 経営学部

教育研究上の目的

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP版)

<p>https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p> <p>(概要)</p> <p>環境変化に直面する企業や社会において、情報を収集・分析・統合しつつ、自ら課題を発見し、適切かつ迅速に解決できる人材を養成する。そのために、経営に関わる理論的・実践的研究の深い知識、仏教と禅による人間観とグローバルな視野による広い教養を礎に、合理的な分析とチームによる問題解決を実践できる能力を陶冶する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能) https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力 [理解、関心、意欲、態度、主体性] 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重 [知識、理解、関心、意欲、主体性、多様性、協働性] 人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経営学を中心とする専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力 [技能、思考力、判断力、表現力] 経営を中心とする情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じて ICT (情報通信技術) をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力 [技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性] レポートや論文などの文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、相手の状況を理解した上で自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の 4 技能 (聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと) について社会人に求められる十分なレベルまで修得している。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力 [知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性] 体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能) https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学部は、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた 5 つの能力を身につけるために、下記の教育課程を編成し実施する。</p> <p>1. 教育内容</p>

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。2年次以降は、学生と教員、学生同士の双方向の対話を重視しながら、高度なコミュニケーション能力およびチームによる問題解決能力を育成する少人数制の演習を開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、社会に出て役立つレベルの「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育については、経営に関わる諸分野の基礎的な内容を学ぶ必修・選択必修科目を厚く設置し、その上に企業経営を多角的に学べるよう多様な専門選択科目を開講する。また、各学科には専門科目を体系的に学ぶことができるコースを設置する。加えて、より高度な学習を求める学生のために、時代に即応した実践的かつ応用的な専門科目を複数開講する。
- 6) グローバル化する社会に対応するために、語学科目を必修科目とすると同時に、より高度な学習を求める学生のために外国語と専門分野との融合科目を開講する。
- 7) 理論と実践の橋渡しのために、実業界で活躍している方々をゲストとして招く形式の授業を複数配置する。また、産業界や地域社会などの発展のために、修得した経営に関する知識や技能などを演習を通じて積極的に活用する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通シラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習および新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。大人数の講義科目でも、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- 3) 演習では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やすとともに、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促すことで、より効果的な学修効果を実現する。
- 5) 教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。なお、「実用英語教育」に関する科目では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果の標準化を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤大学 全学共通科目 育成基礎プログラム	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学への学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立・社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1~2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について、社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1~2	1~2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
専門教育科目	健康・スポーツ分野	1~2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
	講義科目	2~4	1~4			○		◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目	4	2~4			◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、研究、討論、発表を行う。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI（受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能）

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項（HP版）

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

（概要）

経営学部では、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心をもち、高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を身につけた入学者を求めている。また、駒澤大学の教育理念では、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うとしている。入学希望者に対しては、この教育理念を理解した上で出願することが望まれる。本学部では、こうした理解をもった受験生から入学者を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による

多様な入学者選抜を行う。

1. 経営学部の求める学生像

(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕

(AP2) 本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。また、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心を有し、本学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識をもつ。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕

(AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲をもつ。〔主体性、多様性、協働性〕

学部等名 医療健康科学部

教育研究上の目的

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

医療健康科学部は診療放射線技師を養成する学部である。仏教の教えと禅の精神に基づいた幅広い教養をもとに、医用放射線分野の基礎学力とその専門知識・技術、さらに、それらを応用する力、主体的かつ協調的なコミュニケーション力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力・問題解決力を身につける教育を行い、豊かな人間性をそなえて医療人としての強い責任感をもち医療技術の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学部の教育の理念とする。

卒業の認定に関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

医療健康科学部は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部・学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、医療人としての強い責任感と豊かな人間性を有している。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

社会に関する幅広い知識と、専門分野である医用放射線分野における確かな基礎学力と専門知識・技術の知識を身につけ、他の医療スタッフや患者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な医療情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、ICT(情報通信技術)を活用し、問題を発見し問題解決に繋がるアイデアを出し、自ら行動することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文等の内容理解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他の医療スタッフと主体的に協働することができる。また、外国語(英語)の確かな運用能力を有している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

診療放射線技師を目指すものとしての、診療画像および医用放射線科学領域における専門分野の知識・技能・技術を習得し、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

医療健康科学部は、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた5つの能力を身につけるために、全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す「駒澤人育成基礎プログラム」を構築し、本学部・学科の専門教育科目とシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系的性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示す履修系統図(カリキュラム・マップ)を作成する。教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。また、専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につけるため、「基礎数学、基礎物理学、基礎化学、情報処理技術」等の基礎科目を開講する。さらに、モチベーションを上げるための、少人数・ゼミ形式で行われる「科学基礎論」を開講する。
- 3) 専門教育科目では、診療放射線技師資格取得のため、診療放射線技師学校養成所指定規則に基づいて基礎分野、専門基礎分野、専門分野の科目を専門科目として配置する。多様化する診療放射線科学分野の学問領域に対応するため、2コース制を採用し、より各コースの専門性に特化した専門科目を体系的に配置し、先進性の高い教育内容を実現する。講義、演習、実験、実習、総合研究と多様な授業形態をとおして、基礎学力、応用力、問題解決能力を備えた医療人を育成する。専門科目として「医療宗教学」、「医療経済学」、「臨床医療人間学Ⅰ・Ⅱ」「医療安全管理学」を配置し、幅広い視野をもった医療人を育成する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) eラーニングシステム等のWEBシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 4) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な

評価指標によって検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい	
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間		4	1	◎					「仏教」および「禅」に関する基礎知識を習得させ、本学の建学の理念に対する理解を深めることを目的とする。	
	新入生 セミナー	新入生 セミナー	2	1	○	○		◎		「自立的」で「主体的」な大学での学修態度を身につけるため、①駒澤大学の大学生としての自覚を養う。②「学習」から「学修」へ学びを深化させる。③他者との交流を通じて自己を磨く。④変化する社会に自己を方向付ける。以上の4点を柱として、大学で学ぶことの意義について考えを深めることを目標とする。	
	キャリア 教育	科学基礎論	1	1-2			◎			現代医療の状況とその論理を種々の専門分野に則して紹介しながら、少人数による体験と問題提起と討論を通して医療人としての姿勢を培う一助とする。	
	外国語科目	英語 I AA	英語 I AB 英語 I BA 英語 I BB 英語 II AA 英語 II AB	6	1-2	◎			○		高校で学習したことを基礎にして、実用的な側面を包括的に扱う。段階的にレベルを上げていき、英語で自分の意志をより自由に伝えることができるようになることを目標とする。
		英語 I AB									
		英語 I BA									
		英語 I BB									
	ICT教育	情報処理技術	1	1			◎			大学生活ならびに将来の業務に必要なICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。	
	人文・社会・ 自然・ライフ デザイン分野		2-4	1-4		◎				多面的な知識と深い教養を体系的に身につける。	
	保健体育科 目	健康・スポー ツ実習	保健理論	4	1	◎			○		スポーツの実践能力や健康に関する理論を身につける。
保健理論											
リメディアル 教育科目	化学序論	選択 必修	4							入学直後の学生を対象とする授業であり、高校の物理・化学・数学から大学の物理・化学・数学へスムーズに学習できるためのリメディアル科目である。今後の学習のための物理面での基礎力を高めることを目的としている。	
	数学序論										
	物理学序論 A、物理学序 論B										
導入教育科 目	基礎化学Ⅰ、 基礎化学Ⅱ 基礎数学A、 基礎数学B 基礎物理学A、 基礎物理学B		6	1	○	○			○	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。	

専門教育科目	講義科目		1-4			◎	専門分野の知識を、体系的に身につける。		
	演習科目		1-4		○	◎	専門分野の知識を、演習を通して身につける。		
	実験科目	医用物理学実験 医用化学実験 診療画像技術学実験 電気電子工学実験 放射線機器工学実験 放射線管理学実験 画像工学実験	8	1-3		◎	○	◎	実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。レポートにまとめることにより、内容を理解し文章作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝える能力を身につける。
	臨床医療人間学	臨床医療人間学Ⅰ 臨床医療人間学Ⅱ	2	3		◎	◎	◎	医療人としての心構え、および診療放射線技師としての患者接遇法並びにこれらの留意点を中心に、これらの業務が医療施設ではどのように実施されているか、医師および他医療技術職種との連携、業務分担について学ぶ。
	医療安全管理学	医療安全管理学	1	3		◎	◎	◎	実際の医療現場で診療放射線技師として従事していく上で必要な医療安全、感染対策（標準予防策、手指衛生等）、様々な医療装置で起こりうるインシデントなどについて講義と実体験を通じて総合的に学ぶ。
	基礎実習	画像検査技術学基礎実習 核医学検査技術学基礎実習	2	2-3		◎	○	◎	臨床実習前に、検査部位毎に体験実習を行い、実際の臨床の場で応用できる基礎能力を養う。また検査に伴う診断用撮影機器及び周辺機器の適正な使用方法を身に付け、最適な画像を得るための諸条件を工夫する能力をつける。
	臨床実習	画像検査技術学実習 核医学検査技術学実習 放射線治療技術学実習	8	4		○	◎	◎	指定規則により診療放射線技師国家試験受験資格のために必須とされる臨床実習であり、放射線設備および指導者の充実した施設において実施される。
	実用英語教育	技術英語 医学英語 医療放射線科学論文講読 医療画像科学論文講読	2	2-3			○	◎	医学分野で使用される疾患名や器官名の英語表現や診療放射線領域で用いられる撮影技術や放射線管理などに関する技術的な英語を習得するための授業である。
	総合研究（卒業論文・卒業研究）	医療放射線科学総合研究	2	4		◎	◎	◎	4年次においてこれまでの学習成果を基に、医療分野における学生各自の興味のあるテーマについて、指導教員の助言を受けながら研究を行う。

		医療画像科学 総合研究								研究成果は論文に纏めると共に発表を行う。この過程を通じてテーマや課題の発想や設定の仕方、文献の集め方、解読調査、検討の仕方、テーマに沿ったまとめ方、結論の導き出し方や課題の引き出し方を学ぶ。
--	--	----------------	--	--	--	--	--	--	--	---

入学者の受入れに関する方針
公表方法：①駒澤大学ホームページ
<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>
②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)
<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>
③履修要項 (HP 版)
<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)
医療健康科学部は、診療放射線技師を養成する学部である。診療放射線技師には医療人としての資質とともに、理工学的な基礎知識・学力が求められる。従って、大学では医学分野についてはもちろんのこと、放射線・放射能・画像のデジタル処理技術などさまざまな理工学的内容も学ぶ。このため、高校での数学、物理、化学の履修は極めて重要で、その基礎をしっかりと理解しておくことが必要である。この分野への強い関心、探究心をもった学生を求めている。

1. 医療健康科学部の求める学生像
(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、本学部での学修に必要な基礎学力(特に、数学、物理、化学)を有している。〔知識、理解、技能〕
(AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、医療健康科学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
(AP3) 地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
(AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

学部等名 グローバル・メディア・スタディーズ学部
教育研究上の目的
公表方法：①駒澤大学ホームページ
<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>
②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)
<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>
③履修要項 (HP 版)
<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)
グローバル・メディア・スタディーズ学部は、駒澤大学建学の理念である仏教の教えと禅の精神に則り、グローバル化の進む世界におけるさまざまな問題を多角的にとらえる広い視野、複雑化・高度化の進むメディアを経由して大量のコンテンツが流れるしくみを理解し使いこなす知識とスキル、及び学問領域にとらわれない自由な発想力と果敢な実行力を持つ人材を育成する。これを実現するため、当学部は、以下に掲げる「3つのリテラシー」を基礎としたうえで、社会科学系の諸学問分野を中心に、人文科学系および情報科学系にわたる幅広い学問分野で専門教育を行う。

- グローバル・メディア・スタディーズ学部が基礎と位置付ける「3つのリテラシー」
- セカイのことば：ビジネスやその他の「現場」で実用に足るレベルの英語
 - キカイのことば：高度情報化社会を生き抜くために必要なコンピュータと情報のリテ

ラシー

●シャカイのことは：巷に流通するさまざまな情報を読み解き自ら発信していけるメディアリテラシー

当学部は、当学部で学ぶ学生が、知識の習得にとどまらず、学内外の実践を通じて主体的に学び、身につけた合理的な思考力と深い人間性をもって、世界の人々と力を合わせ、困難な課題に果敢に挑戦し、よりよい世界の実現に貢献していくことを目標とする。

卒業の認定に関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、深い人間性をもってよりよい世界の実現に貢献する意欲を有している。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

当学部の学問的基盤となる諸分野(経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学等)の科目を幅広く履修し、新たな知の創造に結びつける力を身につけ、グローバル市民として多様な文化・価値観を理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

理論と実践の両面から、グローバルな課題を見出して解決への道筋を追究するための情報分析力、論理的思考力、そして問題解決能力を備えている。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

十分な語学力、とりわけ、実質的なグローバル・コミュニケーション・ツールである英語を使いこなす力を備え、グローバルな環境において、レポートや論文等の文章読解・作成、およびプレゼンテーションを行い、自らの考えを論理的かつ明確に伝え、他者と主体的に協働していく能力を備えている。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

自ら選んだ専門領域、及びその関連領域における専門知識に基づいてメディアとコンテンツの本質を理解し、地球規模の問題解決に資する研究・分析・提案の能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI (受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、学位授与の方針を満たす人材を育成するため、多様な専門科目の習得が可能となる柔軟な履修制度を採用し、学生の自主的判断で学習計画を作成出来るようなカリキュラムを提供する。このため、「教育の理念」に掲げる「3つのリテラシー」を身につける基礎科目を設けたうえで、種々の専門領域(経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学等)にわたる学際的科目を配置する。学生は、これらの中から自ら中核となる分野を選んで深く学ぶとともに、関連する諸分野の科目を履修し、自らの幅を広げていくことが期待される。さらに、これらの科目を基礎として、実践的な就業力を育成するための科目も提供する。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識と深い人間性を身につけることを目標とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 初年次教育として、専門教育の基礎となる、グローバル化と高度情報化が進む現代社会で活躍するための必須能力(英語、情報リテラシー、メディアリテラシー)を必修科目として設定する。実用に足るレベルの英語力を修得させるため、外国人教員を中心とした少人数制の英語教育を行う。
- 3) 経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学等にわたる専門科目群を設ける。それぞれの領域に関連する科目を系統的に選択必修科目として提供し、学際的な学びの基本とする。
- 4) 専門分野をより深く学習できる機会を与えるために、演習科目(ゼミ)を2年次から設定する。
- 5) グローバルな現場の第一線で活躍する専門家を講師に招く講義を実施し、学びを実践に活かす術を修得できる機会を提供する。
- 6) キャリアデザインの専門家を招き、卒業後のキャリアを自ら主体的にデザインしていくための科目を提供する。
- 7) 海外留学先で取得した単位を卒業単位として認定するだけでなく、海外企業でのインターンシップ、海外でのボランティア活動等に関しても、審査に合格したものは卒業単位として認定する(海外演習実践講座)。また、海外研修の準備学習と帰国後の振り返り学習についても、専門教育科目(Study Abroad)を通じて卒業必要単位として認定する。
- 8) 国内外のさまざまな教育機関等と連携し、学内にとどまらない学修の場を設け、多様な学びを可能にする。

2. 教育方法

- 1) 当学部の特色である多様な専門科目を柔軟に組み合わせて履修できるようにするとともに、留学などの機会を十分に活用することができるよう、セメスター制を採用する。
- 2) 長期・短期の留学、海外インターンシップなどの海外経験を可能とするために、幅広い専門分野の科目は、2年次以降柔軟に履修できるように設定する。
- 3) 大学の外部との連携により産業界の今を知り、学生の就業力を高め、さらにはグローバル化の進む社会における経済成長の一端を担うリーダーを育成するため、最新のメディア、コンテンツ、IT、文化産業などを含むさまざまな実務の現場から第一線で活躍する専門家をゲスト講師として招き、専任教員との共同作業による授業を実施する。
- 4) 意欲と能力を備えた学生にさらなる学びの機会への道を開くため、一定の条件の下で、3年間の在学で卒業し、本学大学院グローバル・メディア研究科(修士課程)に進学できる早期卒業制度を設ける。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤大学 人育成基礎プログラム 全学共通科目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1・2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎		○		多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1・2	1・2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1・2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専門教育科目	専門基礎（英語）	2	1-2		◎			○	実用に足るレベルの英語力の習得。
	専門基礎（情報リテラシー）	2	1		◎			○	実践的なICT能力の習得。
	専門導入（メディアリテラシー）	2	1	◎	○	◎	○	○	メディアとコンテンツを理解するための基本的教養の習得。
	専門導入（導入ゼミ）	2	1	◎	○	◎	○	○	ゼミ学習のための準備。
	専門（必修）	2	1-4	○		◎	◎	○	必須の専門知識を身につける。
	専門（選択必修）	2	1-4	○		◎	◎	○	一定の選択肢の中から専門知識を選んで身につける。
	専門（選択）	2	1-4	○		◎	◎	○	より深い専門知識を身につける。
	専門（演習、卒業研究）	2	2~4	○	○	◎	◎	○	ゼミ形式により、研究及び卒業論文の指導を行う。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学学部学科案内 2023 KOMANABI（受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能）

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項（HP版）

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

グローバル・メディア・スタディーズ学部では、メディアと英語を駆使したコミュニケーション能力、世界を見渡す広い視野、情報技術に関する適切なスキルと理解、社会を流れる情報の本質を見極める力をもって、自らの力をよりよい世界の実現のために発揮できる人材を育成することをめざしている。したがって当学部は、グローバル化の進む世界のさまざまな問題や身近な社会の課題に対し幅広い関心を持ち、自らの力を高め、社会を支える中核を担わんとする学生を求めている。このような学生を、高等学校の基礎的な学力、幅広く社会から自らの意思で学ぶ意欲、深く考え適切にコミュニケーションできる能力といった諸方面から、多面的かつ総合的な視点で選抜する。

1. グローバル・メディア・スタディーズ学部の求める学生像

(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得していること。特に「英語」及び「情報」について、大学での学修に必要な知識、理解、技能を有すること。〔知識、理解、技能〕

(AP2) 世界のさまざまな問題や身近な社会の課題に対し幅広い視点から関心を持ち、自ら選んだ領域において、大学で深く学び、身につけた力をその改善のために用いようとする意欲を有すること。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 合理性をもってものごとを考え、人間性への深い理解をもって判断し、状況と目的に応じてそれらを適切に伝えることができる力を有すること。〔思考力、判断力、表現力〕

(AP4) 世界のさまざまな地域において、また身近な社会の中において、自分とは異なる多様な人々が存在することを理解し、彼らとともによりよい世界を実現するために協働していく意欲を有すること。〔主体性、多様性、協働性〕

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：駒澤大学ホームページ>修学上の情報等>教員組織

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/study.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
仏教学部	—	15人	4人	4人	0人	0人	23人
文学部	—	53人	17人	4人	0人	3人	77人
経済学部	—	35人	14人	2人	0人	0人	51人
法学部	—	24人	11人	3人	0人	0人	38人
経営学部	—	25人	4人	1人	0人	0人	30人
医療健康科学部	—	8人	5人	3人	1人	0人	17人
グローバル・メディア スタディーズ学部	—	12人	1人	6人	0人	1人	20人
総合教育研究部 (教養部)	—	39人	16人	8人	2人	0人	65人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		787人				787人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法:駒澤大学ホームページ>修学上の情報等>各教員が有する業績(研究者情報データベース) https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/study.html						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>2021年度は、「オンライン授業の課題及び効果などの検証」を重点検討課題とし、FD推進委員会、FD推進委員会小委員会、においてFD憲章に基づく活動を行った。具体的には「新規採用教員オリエンテーション」、オンラインやLMSを用いた「公開授業」「学生による授業アンケート」「入学前教育」等が挙げられる。</p> <p>FD研修会について、全教職員を対象に「コロナ禍でのオンライン授業運営に係わる実践事例紹介」「ポストコロナ時代とアクティブ・ラーニング—これからの大学教育を再考する」をテーマとして、オンライン授業の課題と効果検証、および実践事例の共有を図る4回の研修会（オンライン）を行った。また、各学部でFD研修会を行い、結果としてなんらかの形でFD研修会に参加した教員が85%を越える大幅な参加率の向上をみた。</p> <p>加えて、学生FDスタッフとして構成された組織による「学生によるベスト・ティーチング賞」や受賞者による実践事例紹介（FD研修会）、学長との意見交換会などもオンラインと対面を交えて行った。</p> <p>2022年度は、効果的な取り組みを継承しつつ、各教員から寄せられたオンライン授業等に係る課題を精査し、授業改善に関する情報共有方法ならびに学修・授業支援方法についてより抜本的な改善を組織的に検討していく。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
仏教学部	192人	202人	105.2%	792人	788人	99.5%	12人	1人
文学部	826人	945人	114.4%	3,404人	3,533人	103.8%	50人	11人
経済学部	748人	798人	106.7%	3,066人	3,110人	101.4%	37人	33人
法学部	664人	695人	104.7%	2,700人	2,794人	103.5%	22人	6人
経営学部	525人	551人	105.0%	2,142人	2,266人	105.8%	21人	11人
医療健康科学部	62人	65人	104.8%	248人	257人	103.6%	2人	0人
グローバル・メディア・ スタディーズ学部	300人	305人	101.7%	1,230人	1,301人	105.8%	15人	26人
合計	3,317人	3,561人	107.4%	13,582人	14,049人	103.4%	159人	88人

(備考)
記載している編入学定員は、3年次編入学定員（医療健康科学部のみ4年次編入学定員）
文学部、グローバル・メディア・スタディーズ学部では、「若干人」の募集で2年次編入学選抜を実施

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数		
		進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
仏教学部	182人 (100%)	7人 (3.8%)	150人 (82.4%)	25人 (13.7%)
文学部	809人 (100%)	38人 (4.7%)	679人 (83.9%)	92人 (11.4%)
経済学部	793人 (100%)	22人 (2.8%)	697人 (87.9%)	74人 (9.3%)
法学部	687人 (100%)	13人 (1.9%)	581人 (84.6%)	93人 (13.5%)
経営学部	538人 (100%)	9人 (1.7%)	476人 (88.5%)	53人 (9.9%)
医療健康科学部	46人 (100%)	7人 (15.2%)	37人 (80.4%)	2人 (4.3%)
グローバル・メディア・ スタディーズ学部	334人 (100%)	4人 (1.2%)	285人 (85.3%)	45人 (13.5%)
合計	3,389人 (100%)	100人 (3.0%)	2,905人 (85.7%)	384人 (11.3%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
アサヒ飲料株式会社、山崎製パン株式会社、株式会社ブルボン、エステー株式会社、株式会社村田製作所、パナソニック株式会社、三菱自動車工業株式会社、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、株式会社博報堂プロダクツ、キヤノンITソリューションズ株式会社、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ、日本貨物鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、コニカミノルタジャパン株式会社、日本瓦斯株式会社、農林中央金庫、有限責任あずさ監査法人、大本山永平寺、厚生労働省、国土交通省、警視庁

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
仏教学部	207人 (100%)	166人 (80.2%)	19人 (9.2%)	22人 (10.6%)	0人 (0%)
文学部	868人 (100%)	758人 (87.3%)	68人 (7.8%)	42人 (4.8%)	0人 (0%)
経済学部	813人 (100%)	699人 (86.0%)	79人 (9.7%)	35人 (4.3%)	0人 (0%)
法学部	729人 (100%)	591人 (81.1%)	101人 (13.9%)	37人 (5.1%)	0人 (0%)
経営学部	558人 (100%)	468人 (83.9%)	64人 (11.5%)	26人 (4.7%)	0人 (0%)
医療健康科学部	61人 (100%)	41人 (67.2%)	15人 (24.6%)	5人 (8.2%)	0人 (0%)
グローバル・メディア・ スタディーズ学部	358人 (100%)	281人 (78.5%)	43人 (12.0%)	34人 (9.5%)	0人 (0%)
合計	3,594人 (100%)	3,004人 (83.6%)	389人 (10.8%)	201人 (5.6%)	0人 (0%)
(備考) ・対象者＝2018年入学者（編入学・再入学を除く） ・中途退学者には、除籍・死亡を含む ・中途退学者は、事務処理日（2018.4.1～2022.3.31）で回答 ・転部者は、全ての項目において、転部後の所属学部の数に計上					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>全ての授業科目について、前年度の11月に各教員に対し、「シラバス作成ガイドブック」に基づいたシラバス作成を依頼。シラバスには、授業概要・到達目標（ねらい）・授業スケジュール・準備学習・成績評価の方法などの項目が含まれている。</p> <p>作成されたシラバスは各学部学科主任等または各研究科の専攻主任による第三者チェックを経た上で、毎年年度開始直前の3月末に本学ホームページで公開され、学生ポータルサイトでも履修登録開始までに閲覧可能となる。</p> <p>次年度シラバス作成時に、全教員宛に配付する「シラバス作成ガイドブック」にて、成績評価方法（項目と割合）を具体的に記述するよう指示している（全ての科目について入力必須）。成績評価方法は、「試験・レポート・小テスト・平常点」に加えて他に4項目まで追加でき、必要な評価項目にのみ割合を入力して合計を100%とする。その配分に則り教員は授業を実施し、成績評価を行う。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>成績評価におけるGPA等の客観的な指標は、履修要項・大学HP・学生ポータルサイト等に掲載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績は、各科目を「S A B C F 空欄 T」によって評価され、予め定められたGPAの値によって算出される。 GPA算出式については、以下の通り設定している。 $\frac{S \text{ 修得単位数} \times 4.0 + A \text{ 修得単位数} \times 3.0 + B \text{ 修得単位数} \times 2.0 + C \text{ 修得単位数} \times 1.0}{\text{履修した科目の総単位数 (F・評価のない科目を含むが評価 T (認定は含まない)}}$
--

成績の分布について、厳正化を図るため、ガイドラインにて、Sが5%、Aが30%程度と目標値を設定しており、成績評価登録時に科目担当教員へ分布を開示している。また、学部単位の成績分布については、教務部委員会にて報告されている。

卒業の認定にあたっては、事務局にて作成した判定資料を元に、3月各学部教授会において、ディプロマポリシーに鑑みて成績ならびに卒業の判定を行っている。

成績評価におけるGPA等の客観的な指標は、履修要項・大学HP・学生ポータルサイト等に掲載し公表している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
仏教	禅	124	有	49
	仏教	124	有	49
文	国文	124	有	48
	英米文	124	有	48
	地理	124	有	49
	歴史	124	有	48
	社会・社会学専攻	124	有	45
	社会・社会福祉学専攻	124	有	49
	心理	124	有	49
経済	経済	124	有	49
	商	124	有	49
	現代応用経済	124	有	49
法	法律・フレックスA	124	有	48
	法律・フレックスB	124	有	48
	政治	128	有	49
経営	経営	124	有	44
	市場戦略	124	有	44
医療健康科	診療放射線技術科	135	有	56
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア	132	有	49
GPAの活用状況 (任意記載事項)	修学指導の基準としてGPAを活用している。 公表方法： ・駒澤大学ホームページ「駒澤大学進級規程」 https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/files/shinkyukitei.pdf ・履修要項 (冊子)			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：駒澤大学ホームページ>修学上の情報等 ・学修時間・学修実態 ・授業評価結果 ・学修成果 https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/study.html			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/ 法人ホームページ (事業報告) https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

◆2022（令和4）年度以降入学者

学部名	学科名	専攻名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
仏教			759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料100,000円(※1~3) ※1 その他③の費用については、休学をしない学生・在籍料の減額が適用されない休学者からは徴収しない。
文	国文		759,000円	200,000円	341,000円	※2 休学を希望する者は在籍料として、前期分学費を納入しなければならない。ただし、大学が定める前期授業開始日より前に、当該年度の通年休学手続を行った場合は、在籍料を減額し、100,000円とする。9月20日を超えて休学手続を行った場合は、後期分学費を納入しなければならない。(学費は、授業料・施設設備資金・教育充実費及び実験実習料は、年額の2分の1に分割し、前期分、後期分として納入することができる。)
	英米文		759,000円	200,000円	341,000円	※3 在籍料の減額は2019年度より開始。
	地理	地域文化	759,000円	200,000円	356,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③実験実習料15,000円
		地域環境	759,000円	200,000円	356,000円	④通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1~3参照
	歴史	日本史学	759,000円	200,000円	365,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③オリエンテーション費24,000円 ※入学時のみ
		外国史学	759,000円	200,000円	365,000円	④通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1~3参照
		考古学	759,000円	200,000円	380,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③実験実習料15,000円 ④オリエンテーション費24,000円 ※入学時のみ
	社会	社会学	759,000円	200,000円	375,000円	⑤通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1~3参照
		社会福祉学	759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍

						料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	心理		759,000 円	200,000 円	371,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③実験実習料 30,000 円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
経済	経済		759,000 円	200,000 円	341,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	商		759,000 円	200,000 円	341,000 円	
	現代応用経済		759,000 円	200,000 円	341,000 円	
法	法律 フレックスA		759,000 円	200,000 円	341,000 円	⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	法律 フレックスB		490,000 円	130,000 円	227,500 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 114,000 円 ②教育充実費 13,500 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	政治		759,000 円	200,000 円	341,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
経営	経営		759,000 円	200,000 円	341,000 円	⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	市場戦略		759,000 円	200,000 円	341,000 円	
医療健康科	診療放射線技術科		800,000 円	200,000 円	812,500 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 385,500 円 ②教育充実費 27,000 円 ③実験実習費 320,000 円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア		790,000 円	200,000 円	341,000 円	⇒仏教学部備考③※1～3 参照

◆ 2020（令和2）～2021（令和3）年度入学者

学部名	学科名	専攻名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
仏教			759,000 円	200,000 円	341,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円(※1～3) ※1 その他③の費用については、休学をしない学生・在籍料の減額が適用されない休学者からは徴収しない。
文	国文		759,000 円	200,000 円	341,000 円	※2 休学を希望する者は在籍料として、前期分学費を納入しなければならない。ただし、大学が定める前期授業開始日より前に、当該年度の通年休学手続を行った場合は、在籍料を減額し、100,000 円とする。9月20日を超えて休学手続を行っ

	英米文		759,000円	200,000円	341,000円	た場合は、後期分学費を納入しなければならない。(学費は、授業料・施設設備資金・教育充実費及び実験実習料は、年額の2分の1に分割し、前期分、後期分として納入することができる。) ※3 在籍料の減額は2019年度より開始。
	地理	地域文化	759,000円	200,000円	356,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③実験実習料15,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
		地域環境	759,000円	200,000円	356,000円	
	歴史	日本史学	759,000円	200,000円	365,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③オリエンテーション費24,000円 ※入学時のみ ④通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
		外国史学	759,000円	200,000円	365,000円	
		考古学	759,000円	200,000円	380,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③実験実習料15,000円 ④オリエンテーション費24,000円 ※入学時のみ ⑤通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
	社会	社会学	759,000円	200,000円	375,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③実験実習料10,000円 ④オリエンテーション費24,000円 ※入学時のみ ⑤通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
		社会福祉学	759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
	心理		759,000円	200,000円	371,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③実験実習料30,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
経済	経済		759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
	商		759,000円	200,000円	341,000円	
	現代応用経済		759,000円	200,000円	341,000円	
法	法律 フレックスA		759,000円	200,000円	341,000円	⇒仏教学部備考③※1～3参照
	法律 フレックスB		490,000円	130,000円	227,500円	その他に含まれるもの ①施設設備資金114,000円 ②教育充実費13,500円 ③通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
	政治		759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円

経営	経営		759,000円	200,000円	341,000円	②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
	市場戦略		759,000円	200,000円	341,000円	
医療健康科	診療放射線技術科		800,000円	200,000円	812,500円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 385,500円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習費 300,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア		790,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照

◆ 2019（令和元）年度以前入学者

学部名	学科名	専攻名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）	
仏教			690,000円	200,000円	322,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円(※1～3) ※1 その他③の費用については、休学をしない学生・在籍料の減額が適用されない休学者からは徴収しない。	
文	国文		690,000円	200,000円	322,000円	※2 休学を希望する者は在籍料として、前期分学費を納入しなければならない。ただし、大学が定める前期授業開始日より前に、当該年度の通年休学手続を行った場合は、在籍料を減額し、100,000円とする。9月20日を超えて休学手続を行った場合は、後期分学費を納入しなければならない。(学費は、授業料・施設設備資金・教育充実費及び実験実習料は、年額の2分の1に分割し、前期分、後期分として納入することができる。)	
	英米文		690,000円	200,000円	322,000円	※3 在籍料の減額は2019年度より開始。	
	地理	地域文化		690,000円	200,000円	337,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 15,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
		地域環境		690,000円	200,000円	337,000円	
	歴史	日本史学		690,000円	200,000円	346,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③オリエンテーション費 24,000円 ※入学時のみ ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3参照
		外国史学		690,000円	200,000円	346,000円	
考古学			690,000円	200,000円	361,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 15,000円	

						④オリエンテーション費 24,000円 ※入学時のみ ⑤通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	社会	社会学	690,000円	200,000円	356,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 10,000円 ④オリエンテーション費 24,000円 ※入学時のみ ⑤通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
		社会福祉学	690,000円	200,000円	322,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	心理		690,000円	200,000円	352,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 30,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
経済	経済		690,000円	200,000円	322,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	商		690,000円	200,000円	322,000円	
	現代応用経済		690,000円	200,000円	322,000円	
法	法律 フレックスA		690,000円	200,000円	322,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 114,000円 ②教育充実費 13,500円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	法律 フレックスB		490,000円	130,000円	227,500円	
	政治		690,000円	200,000円	322,000円	
経営	経営		690,000円	200,000円	322,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
	市場戦略		690,000円	200,000円	322,000円	
医療健康科	診療放射線技術科		800,000円	200,000円	812,500円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 385,500円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習費 300,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア		790,000円	200,000円	322,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～3 参照

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <p>本学で実施している学生の修学に係る主な支援に関する取り組みは、以下のとおりである。</p> <p>①すべての専任教員が学生の相談や質問を個別に受けるオフィスアワーを設けている。</p> <p>②学生相談室にアドバイザー（専任教員）を配置し、「学業に関する相談」を行っている。</p> <p>③新入生に対する支援として、新入生オリエンテーションでは教員による学部学科の内容紹介をしている。また、初年次教育（1年次）では、全学部学科で「新入生セミナー」を開講し、少人数教育で「自立的」かつ「主体的」な学習態度を身につける授業を行っている。</p> <p>④修得単位数の少ない成績不振者等、一定条件に該当する学生に対しては、学部で教員面談実施、保証人へ単位修得状況を郵送するなど、修学意欲の向上を促す取り組みを行っている。</p> <p>特に、新入生に対しては、一部の必修科目で出席状況を調査し、出席状況が思わしくない場合には、出席を促す通知の発送や教務部職員との面談を実施するなどして対応している。（今年度はコロナウイルスの影響で一部実施できていないが、後期または来年度の運用を検討中である。）また、授業支援システム C-learning の出席管理機能により、学生の出席状況を把握している。</p> <p>⑤図書館に「図書館学修支援員」を配置している。学修支援員は、レポート・論文作成、プレゼンテーション方法、図書館資料の効果的な利用法などをアドバイスし、授業や研究における学修活動の発展をサポートしている。</p> <p>⑥障がいのある学生には、「障がい学生支援委員会」のもと、学生支援センター学生支援相談課に専門知識を持つ支援コーディネーターを配置し、修学上の支援を実施している。</p> <p>⑦授業支援として、Web ポータルサイト「KONECO」による履修登録のほか、休講授業・補講情報・教場変更情報・試験情報・掲示連絡などの情報提供を行っている。また、履修・成績・授業等に関する問い合わせ窓口として「教務部への疑問解決 bot」また、LINE 公式アカウントを開設し、支援を充実させている。</p> <p>⑧ティーチング・アシスタントの制度を設け、本学大学院に在学する大学院生が教育の補助業務（実験・実習、演習等の補助、履修学生の学修相談及び指導）を行っている。また、「学部等授業科目補助業務取扱基準」を設け、外国語科目やパソコン等の実習科目、医療関係の実験・実習科目などにおいて、主に上級年次の学部学生が授業補助を行い、教育の充実を図っている。さらに、学修支援員（ラーニング・サポーター）制度を設け、本学大学院に在学する大学院生等が、学部生に対して学生の学修における相談等の自立支援業務を行っている。</p> <p>⑨経済的に困難でも大学で学ぶ意欲のある学生を支援するため、経済支援を目的とした給付型奨学金を設けている。また、優秀な成績の学生に対する学業奨励を目的とした給付型奨学金も設けている。これ以外にも、主たる家計支持者の死亡等による家計急変時の支援、大規模自然災害被災学生への授業料減免など、学生が学業に専念できるよう、奨学金制度の充実に努めている。</p> <p>⑩留学相談室を設置し、学生の留学相談、語学学習のアドバイス等様々な相談ができる体制を整えている。留学制度としては、短期語学セミナーや交換留学・認定校留学制度があり、交換留学や認定校留学制度では留学中の駒澤大学の授業料が減免される。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <p>日々個別相談を行っている他、キャリアセンター主催で様々な講座を実施している。まず、キャリア形成を促すため低学年向けにキャリアデザイン講座を行っている。また、学生の自己理解と自己形成を踏まえた就職支援体制を整えている。3年生向けには就職活動への意識涵養、自己分析と業界研究や企業研究を進める支援として就職ガイダンス、就活集中セミナー、業界研究講座を行っている。就職活動が本格化する4年生向けには学内合同企業説明会を行い、企業との接点作りといった機会創出を図っている。</p> <p>加えて、業界別就職試験対策講座、公務員試験対策プログラム、教員採用試験対策プログ</p>

ラムを用意し、各分野に特化した支援も行っている。
講座だけでなく、仕事に対する考え方や職業観を醸成するインターンシップの機会も作っており、低学年向けには Internship & Creationship Study、東商リレーションプログラム、世田谷区学生交流プログラム、3年生向けには企業と提携し本学学生の受入枠を設けたインターンシップを行い、学生の進路選択の幅を広げている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健管理センターによる定期健康診断を行い、疾病の早期発見と予防に努めている。また、内科・精神科の専門医が曜日別に常駐し、体調不良やけがなどの応急処置、心身に関する相談に対応し、場合によっては、地域の医療機関への紹介も行っている。

学生相談室カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）による「心理相談」、法律相談員（弁護士）による「法律相談」、その他様々な問題に対して相談・助言を行う「よろず相談」等、個別にあるいは学部及び関連部署と連携を取りながら学生の相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

駒澤大学ホームページ>情報公開

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103028
学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		864人	850人	913人
内 訳	第Ⅰ区分	491人	488人	
	第Ⅱ区分	243人	241人	
	第Ⅲ区分	130人	121人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				921人
(備考) 通年休学者・資産要件抵触者を除く				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	16人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	31人		
計	56人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	—	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	108人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	13人		
計	109人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。